

資源化センター焼却炉故障原因について

平成30年3月24日故障関係

平成30年3月24日に発生した資源化センター1号熱分解ドラムの故障原因についてお知らせします。

熱分解ドラムの概要

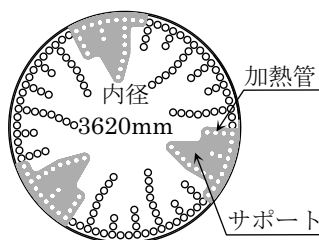
熱分解ドラムでは、本体と内部加熱管の間に酸素のない状態でごみを入れ、内部加熱管に流れている高温空気との間接加熱により、ごみを蒸し焼きにして、熱分解ガスとカーボンに改質しています。

故障の原因

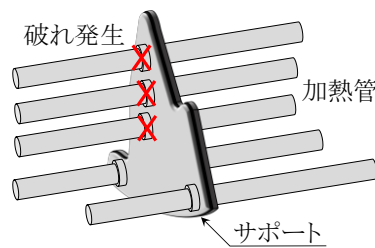
加熱管（全数189本、口径10cm）を支えるサポート部分において、加熱管の一部が破れ、高温空気がごみ側へ漏れたことにより、熱分解ドラム内部で直接ごみが燃焼したことによるものです。なお、破れ発生の原因は継続して調査中です。

被害の状況

通常約450℃で運転している熱分解ドラムの内部温度が、ごみの燃焼によって、約1,100℃まで上昇したことから、加熱管が長さ約16m溶け、本体の一部と燃焼熔融炉に至るダクトが熱により損傷しました。



熱分解ドラム断面



損傷イメージ



損傷状況

復旧の予定

現在、修繕方法の検討と合わせて、復旧に必要な資材の納期について確認中であり、復旧時期は未定です。